

迅速かつコスト効率的な クラウドデータ統合

メリット

- ・インフォマティカの柔軟な従量制料金、最適化エンジン、インテリジェントなコスト自動管理ランタイムツールにより、コストを抑制
- ・ローコード/ノーコード開発を可能にするツール、業務部門を含む全ユーザーのためのセルフサービス機能、すぐに使い始められるテンプレートとウィザードにより、設計および開発の作業負荷を80%低減するとともに再利用を促進
- ・データ取り込み、データ統合、データ品質、アプリケーション統合、API管理などの各種機能を備えた単一のプラットフォームが、マルチクラウドからオンプレミスまでのあらゆる環境をサポートし、簡素化を実現

クラウドネイティブなETL/ELTが、コスト増、人材不足、マルチクラウドの複雑性を解決する

今日、企業は柔軟性や拡張性、コスト効率などのさまざまなメリットを手にするために、クラウドへの移行を加速させています。クラウドデータウェアハウス/データレイクを活用してアナリティクスの最新化を図っている組織にとって、クラウドデータ統合は、アナリティクス戦略に欠かせないだけでなく、デジタルトランスフォーメーション (DX) の要となるものです。

しかし、クラウドへの移行に伴い、コスト超過や人材不足、テクノロジー導入の複雑化といった課題に直面することも珍しくありません。このような課題を抱えていると、開発期間の短縮や迅速なROIなどのメリットを思うように得られません。さらには、デジタルトランスフォーメーションイニシアチブが行き詰まり、業務が中断するリスクもあります。

クラウドデータ統合を通じて、最もコスト効率に優れた方法でコストを管理し、生産性とセルフサービスの強化によって人材不足を解消し、複数のポイントソリューションと同等の機能を備えた業界先進のデータ統合プラットフォームを獲得するには、どうすればよいのでしょうか？最新のクラウドアナリティクスを実行するには、業界先進のETL（データの抽出、変換、ロード）機能とELT（データの抽出、ロード、変換）機能を備えたクラウドネイティブでベストオブブリードなクラウドデータ統合ソリューションが必要です。そしてこのソリューションには、最大規模のデータ処理ジョブにも対応できるシームレスな拡張性が必要です。

今日のデータ統合に伴うコスト、人材不足、複雑性

コストの最適化、生産性の向上、データの民主化を目指すCIO（最高情報責任者）やCDO（最高デジタル責任者）は、データ統合を通じてアナリティクスの最新化を図る際に主に次の3つの課題に直面します。

コスト超過: CIOを始めとするIT管理者は、クラウドのコストを予測するのは困難だと感じています。予測が困難だと、そのコストを管理するのはさらに困難になります。多くの場合、コストが可視化されておらず、どのクラウドサービスを誰がどの程度利用しているのかを把握できていません。クラウドデータウェアハウス/データレイクのデータ入出力には多額のデータ転送コストがかかります。このようなデータ処理の問題に対して、コスト効果的な解決策を見つける代わりに、多くの人手とコンピューティング時間を投入することで解決を図ろうとする組織も少なくありません。

人材不足：CIOやCDOは、大量のデータを扱う組織で発生するさまざまな業務を遂行できる人材を必要な数だけ確保するのに苦労しています。このような業務の多くには高度なスキルを持つ専門家が必要です。IT部門が人材不足に苦しみ中、業務部門はクラウド移行をさらに迅速に進めたいと考えています。人材とセルフサービス機能が不足していると、IT部門がボトルネックになってしまいます。

複雑性：企業のクラウド導入が加速する中、多くのデータ管理者およびIT管理者が、クラウドやマルチクラウドをオンプレミス環境と連携させるという課題に直面しています。複数の異種ツールの間には連携がありません。また、システム統合、データ品質、DataOpsなどの問題により、プロジェクトを開発段階から運用段階に移行するのに必要以上の時間がかかってしまいます。

クラウドデータ統合：汎用的なソリューションでは通用しない

一般的に、データ処理にポイントソリューションを使用すると、そのソリューションの制約に縛られることになります。これらのツールは、データ転送コストの削減やコンピューティング時間の短縮などを念頭に設計されていません。また、プッシュダウンオブティマイゼーション機能も備えていません。データ統合ベンダーが提供するポイントソリューションは、クラウドETL機能またはクラウドELT機能のどちらかは搭載しているでしょう。しかし、両方の機能を備えたベストオブブリードのソリューションではありません。データ量が多いジョブの場合、またはSQLロジックでは対応できないジョブの場合は、データの場所やコスト効率を考慮してSparkベースの処理を選択することがあります。しかし、制約の多いデータ統合ツールを使用していると、限られたタイプのデータ統合処理しかサポートしていないので、ジョブに応じて最適な処理モードを選択できません。

包括的なソリューションがなければ、汎用的なソリューションであらゆるデータ処理要件に何とか対応するか、ジョブごとに異なるツールを使用することになります。しかし、いずれの方法も柔軟性と管理性に欠けています。これでは、効果的にコストを管理し、セルフサービスを推進し、マルチクラウド環境やマルチハイブリッド環境でのデータ統合を簡素化することはできません。もっと良い方法があります。

インフォマティカの高パフォーマンス、低コストなクラウドデータ統合

インフォマティカは、オンプレミスデータ統合のためのエンタープライズクラスETLにおけるパイオニアです。AI（人工知能）を活用したクラウドネイティブデータ統合では、インフォマティカのベストオブブリードのETL機能、ELT機能、柔軟なSparkベースデータ処理を通じて、あらゆるクラウドデータ統合ニーズに対応することが可能です。インフォマティカのクラウドネイティブデータ統合は、企業に次の3つのメリットをもたらします。

コストの管理と最適化

インフォマティカのソリューションを使用すればジョブに応じて最適な処理を選択できるようになり、結果としてコンピューティング時間の短縮やデータ転送コストの削減などが可能になります。データ処理のスピードが速ければ速いほど、コンピューティングに要する時間が短縮されます。インフォマティカの高パフォーマンスソリューションなら、コストを削減しつつ、クラウドモダライゼーションイニシアチブを加速できます。

- **最適化エンジン**：インフォマティカの最適化エンジンにより、クラウドエコシステムプッシュダウン、クラウドデータウェアハウスプッシュダウン、従来のETL、Sparkサーバーレス処理など、最もコスト効率に優れた方法でデータを処理できます。

- **コスト管理機能**: インフォマティカのソリューションは、コンピューティング時間の制限を設定すると、ユーザーの使用パターンや行動に応じて制限を自動調整し、場所に合わせて最適化します。Informatica CLAIRE[®]が、メタデータ主導のインテリジェンスを活用して、処理方法を提案したり、よりコスト効率に優れたオプションを提示したりしてくれます。
- **柔軟な従量制料金**: インフォマティカのソリューションはシンプルな従量制料金を採用しているため、ニーズの変化に合わせてスケールアップ/スケールダウンも簡単に行えます。また、業界先進のクラウドサービスにも幅広く対応しているので、新機能を迅速に導入してイノベーションを推進できます。さらに、さまざまなマーケットプレイス (Amazon Web Services、Microsoft Azure、Google Cloud) のプライベートオファーを通じたサブスクリプションモデルの利用も可能です。インフォマティカのサブスクリプションは、マーケットプレイスでのクラウドプラットフォームの利用コミットメントとしてカウントされます。詳細は、インフォマティカの貴社担当マネージャーにお問い合わせください。

人材不足を解消

インフォマティカのクラウドデータ統合ソリューションでは、セルフサービスやAI、自動化を活用して、より高速かつ簡単に統合を進められるため、IT部門スタッフの作業負荷が大幅に軽減されます。

- **セルフサービス**: インフォマティカのローコード/ノーコード開発ツールを使用すれば、より少ない人数でジョブを実行できます。また、直感的なGUI (グラフィカルユーザーインターフェイス) によって、専門知識を持つ技術担当者だけでなく、業務担当者もジョブを実行することが可能です。データオペレーションチームは、単一のシステム管理コンソールを使用して、インフォマティカのソリューションで実行したすべてのジョブと処理を監視および管理できます。
- **テンプレート**: テンプレートとマルチステップのウィザードにより、開発時間が最大80%短縮されます。あらかじめ組み込まれたクイックスタートバンドルやアクセラレータを活用して、データウェアハウジング、データ品質、Snowflakeへのデータ移行などの一般的なデータ統合プロジェクトを進められます。データパイプライン (インフォマティカでは「マッピング」と呼んでいます) は再利用可能かつ動的であるため、データに変更があっても、過去に構築したデータパイプラインを何度でも再利用できます。
- **AIと自動化**: インフォマティカのソリューションでは、AIと機械学習を活用したインテリジェントな自動化が可能です。各ジョブをゼロから手作業で作成する必要はありません。大規模で複雑なデータ処理ジョブの場合は、CLAIREの提案に従って、マッピングの構築、データファイル形式の解析、パフォーマンスと使用率の最適化を実行できます (自動調整や自動拡張など)。

クラウドからオンプレミスまで、あらゆる環境のデータマネジメントを簡素化

インフォマティカのソリューションを使用すれば、単一の統合プラットフォームを通じて、クラウドデータ統合を大幅に簡素化できます。複数のベンダーから複数のツールを購入する代わりに、業界先進のクラウドネイティブソリューションを1つ導入するだけで、使いやすいツールによって、あらゆる環境 (単一クラウド、マルチクラウド、マルチハイブリッド、オンプレミス) のクラウドアプリケーションとオンプレミスアプリケーションすべてに対応することが可能になります。データのライフサイクルにクラウドデータ品質のプロセスが組み込まれているので、品質管理作業に費やす時間が1週間あたり最大35%短縮されます¹。その結果、展開を加速させ、プロジェクトを迅速に運用化できるだけでなく、信頼性の高いデータを通じて意思決定やAI主導の予測アナリティクスを改善できます。

¹ Nucleus Research ROI Guidebook: Informatica iPaaS

インフォマティカについて

デジタルトランスフォーメーションによって我々の期待値が変化しています。より良いサービスを、素早く、便利に、低コストで利用したいという期待が高まっているのです。企業も状況に応じて変化する必要があります。そしてそのヒントは「データ」にあります。

エンタープライズ向けクラウドデータマネジメントで世界をリードするインフォマティカは、俊敏性の向上、新たな成長機会の獲得、新しいソリューションの開発を実現するための洞察を通じて、あらゆる産業や分野の企業がインテリジェントにビジネスをリードできるよう支援します。インフォマティカは、あらゆるデータを徹底的に重視し、企業の成功に必要なとされる汎用性を提供します。

インフォマティカは、企業がこれからのインテリジェントな破壊的イノベーションを推進できるよう、当社が提供するあらゆるサービスを通じてデータの力を継続的に引き出すことを支援します。

Informatica Intelligent Data Management Cloudによるエンドツーエンドのクラウドデータマネジメント

インフォマティカのクラウドネイティブなデータ統合ソリューションは、業界初の最も包括的なクラウドネイティブのAI搭載データマネジメントプラットフォーム、Informatica Intelligent Data Management Cloudを基盤としています。

このプラットフォームは、260以上のインテリジェントなクラウドサービスに加え、データ取り込み、クラウドETL/ELT、データ品質、アプリケーション統合、データカタログ、データガバナンス、マスターデータマネジメントなど、ベストオブブリードの機能を備えています。クラウドデータマネジメントに関するあらゆるニーズをサポートし、統合要件やテクノロジーの変化にも対応できる、ひとつの包括的なクラウドネイティブプラットフォームを提供しているのは、インフォマティカだけです。

次のステップ

インフォマティカのクラウドデータ統合と業界先進のクラウドETL/ELTソリューションの詳細については、[こちら](#)をご覧ください。ソリューションの[30日間無料体験版](#)もご用意しています。



Informatica

〒105-6226

東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階 電話：03-6403-7600（代表）FAX：03-3433-1021

IN17_0621_04160

© Copyright Informatica LLC 2021. Informatica、Informaticaロゴ、およびCLAIREは、米国およびその他の国におけるInformatica LLCの商標または登録商標です。インフォマティカの商標の最新版は、<https://www.informatica.com/jp/trademarks.html>をご覧ください。その他すべての企業名および商品名は、各社が所有する商号または商標です。本文書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、現状のまま提供され、明示または黙示を問わず一切の保証を伴いません。